

（解答は全て解答用紙の所定箇所に記入すること）

1. 次の文章は「企業会計原則」の一般原則について述べたものである。〔 〕内、< >内を埋めなさい。ただし、〔 〕内（ア～カ）については、下記の①～⑰から字句を選び、番号で埋めること。 (20点)
- (1). 企業会計は、すべての取引につき、正規の〔ア〕の原則に従って、正確な会計帳簿を作成しなければならない。 ⇒ < A >の原則
- (2). 資本取引と〔イ〕取引とを明瞭に区別し、特に〔ウ〕剰余金と〔エ〕剰余金とを混同してはならない。 ⇒ < B >の原則
- (3). 企業会計は、〔オ〕によって利害関係者に対し、必要な会計事実を明瞭に表示し、企業の状況に関する判断を誤らせないようにしなければならない。 ⇒ < C >の原則
- (4). 企業会計は、その処理の原則および手続きを每期継続して適用し、みだりにこれを変更してはならない。 ⇒ < D >の原則
- (5). 企業の財政に〔カ〕な影響を及ぼす可能性がある場合には、これに備えて適当に健全な会計処理をしなければならない。 ⇒ < E >の原則
- (6). 上記の5つの原則以外に< F >の原則、< G >の原則がある。
- ① 監査報告書 ② 計規 ③ 財規 ④ 財務諸表 ⑤ 資産 ⑥ 資本
 ⑦ 重大 ⑧ 商業帳簿 ⑨ 損益 ⑩ 損益計算書 ⑪ 貸借対照表 ⑫ 帳簿
 ⑬ 負債 ⑭ 不利 ⑮ 簿記 ⑯ 有利 ⑰ 利益
2. 貸借対照表の三つの主な作成原則について簡潔に説明しなさい。 (20点)
3. 次の説明にあてはまる用語を書きなさい。 (20点)
- (1). 有形固定資産の取得時または取得後に発生する支出のうち、この資産の取得原価に加えるべき支出（建物の増改築費など）
- (2). 一定の契約に従って継続的に役務を提供している場合、すでに提供済みの用役分に対してまだ受け取っていない対価
- (3). 有形固定資産の取得原価を耐用期間にわたって費用として配分すること
- (4). 減少資本金額が、株式の消却または払い戻しのために要した金額を超える場合の超過額
- (5). （遊資金の利殖のための）一時的投資以外の長期投資に基づく株式、社債等の債券

4. 平成 2 年 4 月 1 日に設立された会社（無額面株式を 1 株 10 万円で 150 株発行）があり、資本金は 1300 万円で、資産状況は現金 150 万円、当座預金 1350 万円であった。その後、この会社は以下の取引を行った。
- (A) 平成 2 年 4 月 3 日：備品 100 万円を購入し、代金は小切手で支払った。
- (B) 平成 2 年 5 月 1 日：商品 300 万円を、代金を翌月 20 日に支払うという約束で仕入れた。
- (C) 平成 2 年 5 月 10 日：上記商品を 500 万円で販売したが、代金は翌月 10 日に支払われることになった。
- (D) 平成 2 年 6 月 10 日：(C) の代金 500 万円が約束手形で支払われた。
- (E) 平成 2 年 6 月 20 日：(B) の代金を支払うため、小切手 50 万円と約束手形 250 万円を振り出した。

次の問に答えなさい。

(40 点)

- (1) . (A) ~ (E) の仕訳をしなさい。
- (2) . 平成 2 年 6 月末時点における貸借対照表を作成しなさい。

ただし、(1)、(2) の解答に用いる勘定科目は以下のものから選ぶこと。

受取手形 売上 売掛金 買掛金 現金 仕入 支払手形 資本金 資本準備金
当座預金 任意積立金 備品 未収金 未払金 利益 利益準備金

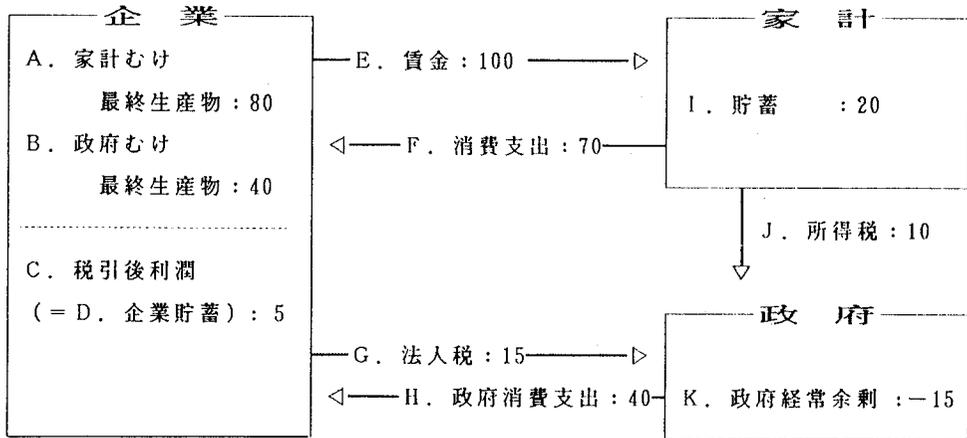
5. 次の文章の () を埋めなさい。

(30 点)

- (1) . 中央銀行が市中の民間経済主体に対して負っている負債の総額である (ア) の規模は、(イ) による (ウ) に対する貸出、中央銀行による市中との (エ) の売買、中央銀行による (オ) に対する介入などによって増減する。
- (2) . 中央銀行が (カ) を行えば、手形、債権が中央銀行から市中へ出ていき、それだけの額のハイパワードマネーの (キ) が起こる。(ク) はちょうど逆の操作でそれによって (ケ) は増大する。
- (3) . 財政政策は、(コ) 政策とともに、(サ) 需要を刺激または抑制するための (シ) 政策の重要な柱である。財政支出の増大は、乗数プロセスを通じ国民所得を増加させると同時に、貨幣需要も増大させ、その結果、(ス) 率が上昇する。(ス) 率の上昇は (セ) を抑制するから、乗数プロセスを通じて国民所得水準を引き下げる方向に働く。景気刺激をねらった財政政策本来の効果を打ち消す方向に働くこのような効果を (ソ) 効果という。

6. 次の経済モデルに関し、下記の文章の () を数値、記号 (A~K) で埋めなさい。

(20点)



国民所得の額は (ア : 数値) である。生産面からみた国民所得は (イ : 記号 複数) の合計であり、分配面からみた国民所得は (ウ : 記号 複数) の合計であり、支出面からみた国民所得は (エ : 記号 複数) の合計である。

7. 総生産 (Y)、消費 (C)、輸入 (IM)、投資 (I)、政府支出 (G)、輸出 (EX) が次の関係、数値であたえられる経済モデルにおいて、(1) 均衡GNP、(2) 貿易収支、(3) この経済モデルの乗数値、(4) 輸出がプラスα増加した場合の均衡GNPの増加額を求めなさい。(20点)

$$C = 0.9 Y + 50 \quad IM = 0.2 Y + 10 \quad I = 30 \quad G = 0.05 Y + 20 \quad EX = 50$$

8. ある独占的製造業者が自社製品の価格の見直しを検討している。現在の価格を $t\%$ 上げると年間販売量の $t\%$ の減少が、逆に現在の価格を $t\%$ 下げると年間販売量の $t\%$ の増加が見込まれる。現在の価格及び年間販売量を 1 として次の間に答えなさい。(30点)

- (1) この製造業者の直面する需要曲線と限界収入曲線を描きなさい。(解答に際しては、曲線が縦軸、横軸と交わる点の数値を明記すること)
- (2) この製品の製造販売には、製造量の多寡にかかわらず、製品 1 個当り、現在の価格の 40% の経費がかかるものとする。この製造業者の利潤を最大にする価格および年間販売量を求めなさい。

以上

会計・経済（解答例）

1. ア. 15 イ. 9 ウ. 6 エ. 17 オ. 4 カ. 14
 A. 正規の簿記 B. 資本取引・損益取引区分 C. 明瞭性
 D. 継続性 E. 保守主義 F. 単一性 G. 真実性
2. (1). 完全性の原則：企業の財政状態を正しく理解できるように全ての資産、負債、資本を表示する
 (2). 区分計算表示の原則：資産、負債、資本の各科目を一定の基準で区分し、区分毎に金額計算する
 (3). 総額主義の原則：資産、負債、資本の各科目について、その総額を掲げる
3. (1). 資本的支出 (2). 未収収益 (3). 減価償却
 (4). 減資差益 (5). 投資有価証券

4. (1)

A		B		C	
備品 100万円	当座預金 100万円	仕入 300万円	買掛金 300万円	売掛金 500万円	売上 300万円
D		E			
受取手形 500万円	売掛金 500万円	買掛金 300万円	当座預金 50万円	支払手形 250万円	

(2)

<p>(資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">現金</td><td style="text-align: right;">150万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">当座預金</td><td style="text-align: right;">1200万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">受取手形</td><td style="text-align: right;">500万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">備品</td><td style="text-align: right;">100万円</td></tr> </table>	現金	150万円	当座預金	1200万円	受取手形	500万円	備品	100万円	<p>(負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">支払手形</td><td style="text-align: right;">250万円</td></tr> </table> <p>(資本)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">資本金</td><td style="text-align: right;">1300万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">資本準備金</td><td style="text-align: right;">200万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">利益</td><td style="text-align: right;">200万円</td></tr> </table>	支払手形	250万円	資本金	1300万円	資本準備金	200万円	利益	200万円
現金	150万円																
当座預金	1200万円																
受取手形	500万円																
備品	100万円																
支払手形	250万円																
資本金	1300万円																
資本準備金	200万円																
利益	200万円																

5. ア. ハイパワードマネー イ. 中央銀行 ウ. 市中銀行
 エ. 債券 オ. 外国為替市場 カ. 売りオペレーション
 キ. 縮小 ク. 買いオペレーション ケ. ハイパワードマネー
 コ. 金融 サ. 有効 シ. マクロ経済 ス. 利子
 セ. 投資 ソ. クラウディングアウト

6. ア. 1 2 0 イ. A B ウ. C E G
 エ. D F H I K

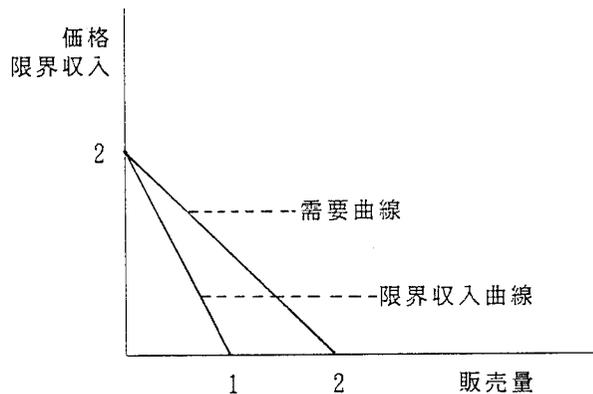
7. (1). 5 6 0 (2). - 7 2 (3). 4 (4). 4α

8. (1). 販売量: X 、価格: Y とすると、 $X = 1 - t$ 、 $Y = 1 + t$ から

$$X + Y = 2 \quad \text{..... 需要曲線}$$

$$\text{収入} = X \cdot Y = X \cdot (2 - X) \quad \text{から}$$

$$\text{限界収入} = 2 - 2X \quad \text{..... 限界収入曲線}$$



- (2). 費用 = $0.4X$ から 限界費用 = 0.4

独占の市場で利潤が最大になるには 限界収入 = 限界費用

$$\text{の場合であるから、} \quad 2 - 2X = 0.4$$

$$\text{販売量} = X = 0.8 \quad \text{価格} = Y = 1.2$$

以上